

インド・シッキム州
カンチェンジュンガ東面の山旅、2016年4月
―困難な入域、ゼム氷河、シニオルチューの麗姿など―

頭師 正子

雲南懇話会幹事 薔薇愛好家

はじめに

それまで山歩きの経験皆無、60歳過ぎにスキーで腰椎3本圧迫骨折の大きなけがをし半年間不自由な生活を強いられた時「ヒマラヤ・アンナプルナを仰ぐマナン盆地トレッキング云々」と言う初めて耳にする地名に「最初で最後」のつもりで参加した。このマナンロッジの窓越しに迫り来るガンガプルナ(7454 m)のアイスフォールに言葉もなかった。それから4年半の間に15カ所の場所を訪れる事など想像だにしかった。マナンに足を踏み入れた時から残された時間の使い方、価値観、交友関係が大きく変わった事は言うまでもない。



私の山旅記録

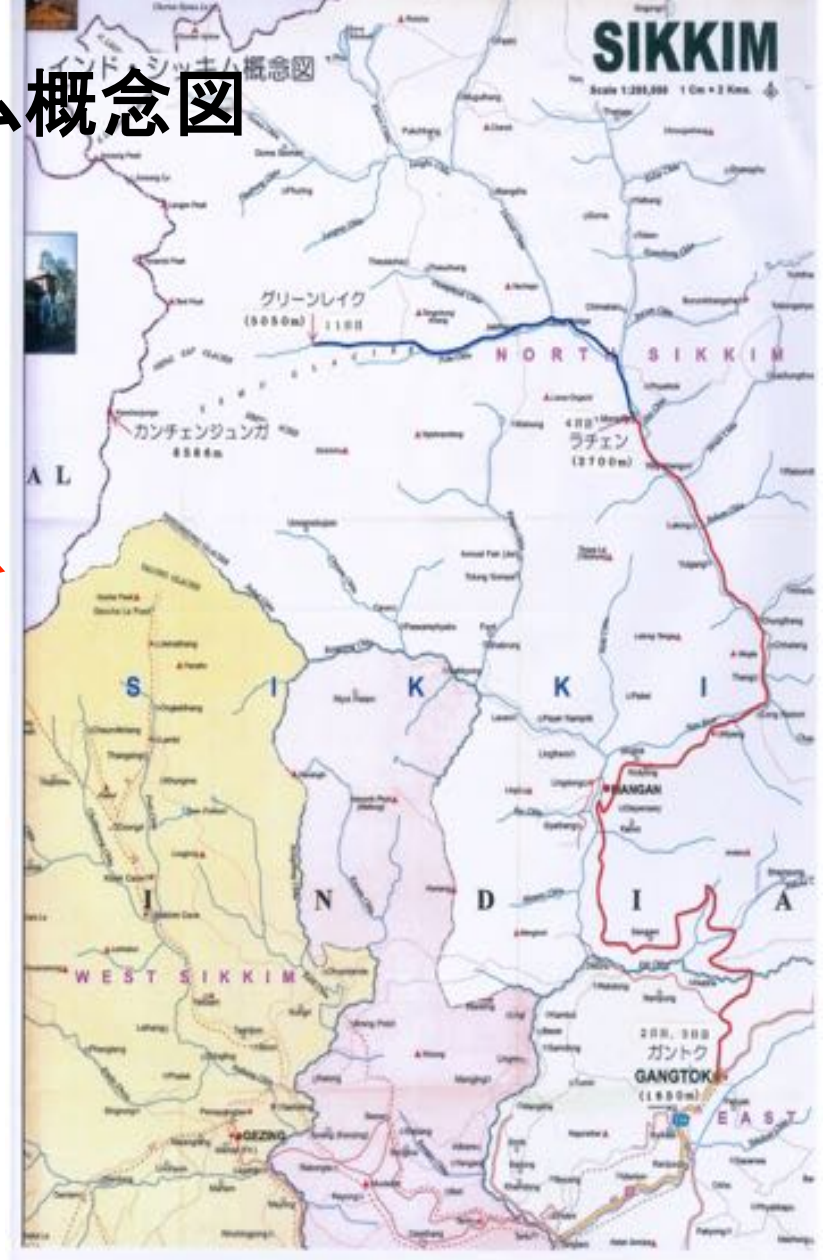
- ① 2011年10～11月 アンナプルナ連峰北面を仰ぐマナン盆地トレッキング
- ② 2012年3月 グリーンランド オーロラ観賞、氷床散歩と犬ぞりツアー
- ③ 2012年7～8月 パミール高原・レーニン峰B・C
プテシェビンコ峠・4200mへトレッキング
- ④ 2013年2月 アコングア ⇒ パタゴニア
(悪天候続きでアルゼンチン側の道路閉鎖のためアルゼンチン入国
出来ず急遽2/11～2/14までパタゴニア滞在)
- ⑤ 2013年7～8月 ハンテングリ&ポベーダB・C
- ⑥ 2013年10月 コーカサス山脈
怪峰ウシュバ、スワチネ山脈、コーカサス最高峰シハラ
- ⑦ 2014年1～2月 アコンカグア
南壁のBC・プラーザフランシア・4200mへトレッキング
- ⑧ 2014年4月 マナスル西壁直下ビムタン滞在
ポンカル氷河湖・4200mまでトレッキング
- ⑨ 2014年7～8月 カナダ最高峰Mt・ローガン(5959m) & クルア二大氷河
ローガン山の裾野雪原へスキー付き軽飛行機で着陸、雪原で
3日間滞在

- ⑩ 2014年11月 チベット・チョモランマ(BC5154m) チョーオユー(BC4820m)
シシャパンマ(BC4850m)各BC地へ
カツオーラ峠(5200m)パンラ峠(5210m)
- ⑪ 2015年5月 ペルーアンデス
ブランカ山群核心部とワイワッシュ山群トレッキング
- ⑫ 2015年8月 北極3島探検クルーズ 18日間
スピッツベルゲン島～グリーンランド～アイスランド
- ⑬ 2015年9月 直行便で行く！スイス・アルプス・ハイキング
- ⑭ 2016年4～5月 世界第三位の高峰・カンチェンジュンガ東面ゼム氷河
トレッキング16日間 4900mまでトレッキング
- ⑮ 2016年5～6月 北米最高峰デナリ・フライトと眺望ハイキング、国立
公園探訪10日間
- ⑯ 2016年10月(予定)
秋の横断山脈 黄葉のコンガ雪山と梅里雪山2つの
山群ハイキング13日間
四川省の最西、コンガ雪山山群の一つ、麗峰ヤンマイヨンと
雲南省梅里雪山山域トレッキング

私の山旅記録



インド・シッキム概念図



4月16日、成田からインドの首都デリーへ翌
17日、デリーから国内線でインド東部・西ベン
ガル州バグドグラの空港へ。ここからは車で5
時間、シッキムの州都ガントック(1650m)へ。

2016年4月、カンチェンジュンガ(標高8585m)東面ゼム氷河のレストキャンプ(4500m)に滞在した。近年は表向き環境保護と聖山という理由で入山が困難になった地域である。加えて特記すべき新記録がある。参加者11人の最高齢者はもうすぐ81歳、平均年齢は70歳を超えている。これはレストキャンプ入山者記録の最高齢更新となった。

デリーの暑さに耐えかねて最近ではこのガントックへの移住者が増えている由、想像以上に賑やかな街である。ガントックのホテルで夕食時この地方の地酒チャンがふるまわれた。これは米、麦、トウモロコシ、ヒエなどを原料に各家庭で作られるどぶろくである。伝統的な飲み方はシャクナゲの太い枝をくりぬいて作られるトンバと呼ばれる木製容器を用いて飲む



カンチェンジュンガ(8586m)

ネパール東部とインドのシッキム州との国境にあるシッキム・ヒマラヤの中心をなす山群の主峰で**世界第3位**の高峰(1850年頃には世界の最高峰と考えられていた)



レストキャンプ(東面)からのカンチェンジュンガ

カンチェンジュンガ — チベット語で「偉大な雪の5つの宝庫」の意味。

・主峰の他に

西峰(別名、ヤルン・カン、8,505m)、中央峰(8,478m)、南峰カンチェンジュンガⅡ(8,476m)、カンバチェン(7,903m)

・カンチェンジュンガのBCは3カ所

ネパール側に2つ (パンペマ、オクタン)

インド側に1つ (グリーンレイク)(インド側のゴチャラは展望地)

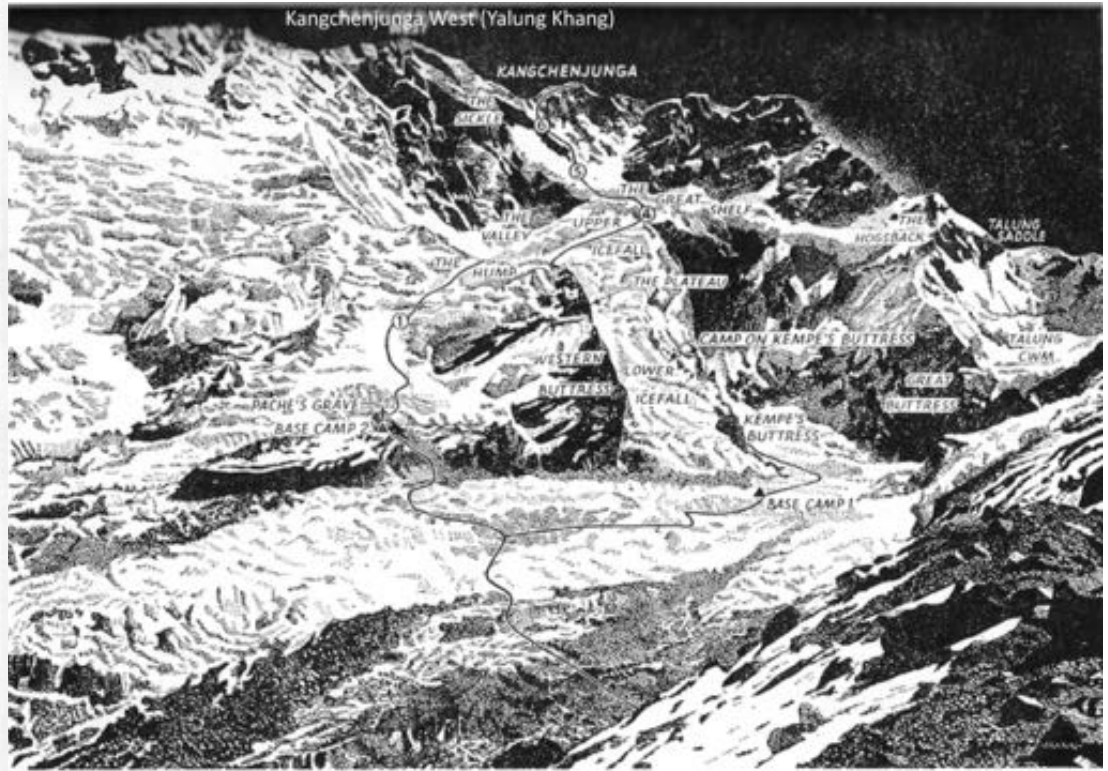
尚、現在はインド側からのカンチェンジュンガは政府が許可を出していないので、登攀は出来ない。

1955年5月25日(初登頂) - イギリスのチャールズ・エヴァンス隊のジョージ・バンド、ジョー・ブラウン。「南面ヤルン氷河から登頂成功」

1973年5月14日-西峰(ヤルン・カン)に初登頂。

京都大学学士山岳会の上田豊、松田隆雄が下山時8000m付近でビバークを余儀なくされ、松田隊員が行方不明に。

カンチェンジュンガの初登頂



The Yalung face from Corner Camp

Evans (1956): Kangchenjunga: the Untrodden Peakより、一部改

カンチェンジュンガ西峰は1970年代、京大AACKが遠征隊を組織する際にヤルンカンと名付けられた。

Evans (1956): Kangchenjunga: the Untrodden Peak

南峰 →



ゴチャラ側からのカンチェンジュンガ

写真提供 アルパイン・ツアーサービス



ヤルンカン

主峰

中央峰

南峰

ネパール・ヤルン氷河側B・Cからのカンチェンジュンガ

久保典彦撮影、1999年12月



ヤルンカン

主峰

トゥインズ

ネパール・パンペマ側BCからのカンチェンジュンガ(1)

久保典彦撮影、1999年12月

主峰
(8586m)

ヤルンカン
(8505m)

カンバチェン
(7903m)

ネパール・パンペマ側BCからのカンチェンジュンガ(2)

久保典彦撮影、1999年12月

カンチェンジュンガ・ゼム氷河トレッキング行程



4/20(トレッキング1日目) ラチェン(2700m)～タレム(3240m)

この日から朝夕、動脈血酸素飽和度及び脈拍のチェック始まる。



ロッジ中庭で出発の準備



ロッジを出て2時間近く
生活道を歩く



総勢50人のスタッフ
全員集合

ラチェン出発から8時間余、
このルートが10日間のトレッキングで一番の難所だった。



シャクナゲの咲く樹林帯のトンネル



雪渓では一步ずつ慎重に



岩場で初めてのザイル使用



ガレ場

4/21(トレッキング2日目)

タレム(3240m)～ジャクタン(3300m)

出発してから3時間半でジャクタンのキャンプ地に到着。



樹林帯の中、頭上には色とりどりのシャクナゲの花



足元にはプリムラ等可憐な花々が一杯の楽しいコースだった。

4/22・23(トレッキング3・4日目)

ジャクタン(3300m)～ヤブック(3850m)で連泊

この日から高山病予防として朝晩ダイアモックス半錠ずつ服用、
副作用としてトレッキング中、手足の先がしびれる。



シャクナゲのトンネル



3800m位から道端
や崖の上にブルー ポ
ピーの大株が



ヤブックのキャンプ地
何しろ寒い！
焚火で暖を取る

4/24(トレッキング5日目)

ヤブック(3850m)～レストキャンプ(4500m)へ

前夜9時頃から吹雪に、夜中、スタッフが各テントの雪払いに回る



この時期の雪は日が当たれば溶けるのも早い



荒れた道をレストキャンプへ向けて慎重に歩く

レストキャンプへ向けて



約4100m地点でのゼム氷河モレーン
(ゼム氷河末端は約4000mで現れる)

広くてきれいなアブレーションバレーが続く



4/25(トレッキング6日目) レストキャンプ・滞在2日目

早朝5時前、テント周辺が何やら興奮気味!!、昨日までのぐずつき気味の天候とは一変、雲一つない快晴の下、真っ赤に染まっていくシニオルチューとカンチェンジュンガの雄姿に鳥肌がたった。

5:00過ぎテントにはうっすらと雪が
シニオルチューが柔らかなピンク色に染
まっていく



月とカンチェンジュンガの朝焼け
たき火を囲んで朝焼けを楽しむポーターさん
達、彼らにとっても初めての体験





25日 5:05 レストキャンプからのカンチェンジュンガ 朝焼け



25日 5:06 シニオルチューの朝焼け



名峰シニオルチュー(6887m)は第2次大戦までは世界で最も美しい山と言われた
1936年にドイツ隊により初登頂

4/25



7:50 カンチェンジュンガを目の前に朝食
何よりのご馳走



9:20 シュガーローフ峰



レストキャンプ上部(4790m)へハイキング



カンチェンジュンガ主峰



ヤルンカン



ツインズ



シュガーローフ



カンバチェン



4/26 レストキャンプからのツインズ & シュガーローフ



5:22 ツインズ(7350m)

5:06 シュガーローフ(6455m)



26日 ネパールピーク (7168m)



今日のキャンプ地(4780m)に向う途中、

シンヴー(6812m)



4/26日(トレッキング7日目)

レストキャンプ(4500m)～グリーンレイク手前(4780m)

今日のキャンプ地(名前なし・4780m)に到着後カンチェンジュンガの
ベースキャンプ地であるグリーンレイク(5050m)へ向けトレッキング開始

4780mの最終キャンプ地



11人の内、最高齢者Aさんはキャンプ地に
残り10人でグリーンレイクめざして出発



26日12:56 今回は4900m地点で終了



10人で出発したが途中で3人引き返す。7名が4900m迄到達。
この後健脚の女性2人が5050m
のグリーンレイクに立つ



記録更新、4900mの地点で万歳

26日 4900mの地点から、眼下に広がるゼム氷河



ゼム氷河

カンチェンジュンガ山の東側(インド側)に位置する谷氷河。長さ約25km、
末端高度4070m。

27日 8:15 背後の丘からのゼム氷河



4月28日(トレッキング9日目)
ヤブック(3850m)～タレム(3240m)

奇跡の一輪



一輪のブルーポピーの花が。
開花期より2カ月も早くひっそりと崖の上に・・・
「よく歩きましたね」と労いのご褒美だったような
気がしました。

さよならケーキ

今日がテント生活最終日、10日間お世話になったコック長さんの
手作りケーキ、お心遣いに感謝して..



新居さんお疲れさまでした。



19:50
オーブンの代わりに圧力鍋で、
お気持ちが加味されて美味しかったです。

4月29日(トレッキング10日目、最終日)
タレム(3240m)～ゼマ(2800m)



11:20 ゼマの駐車場到着、
トレッキング終了

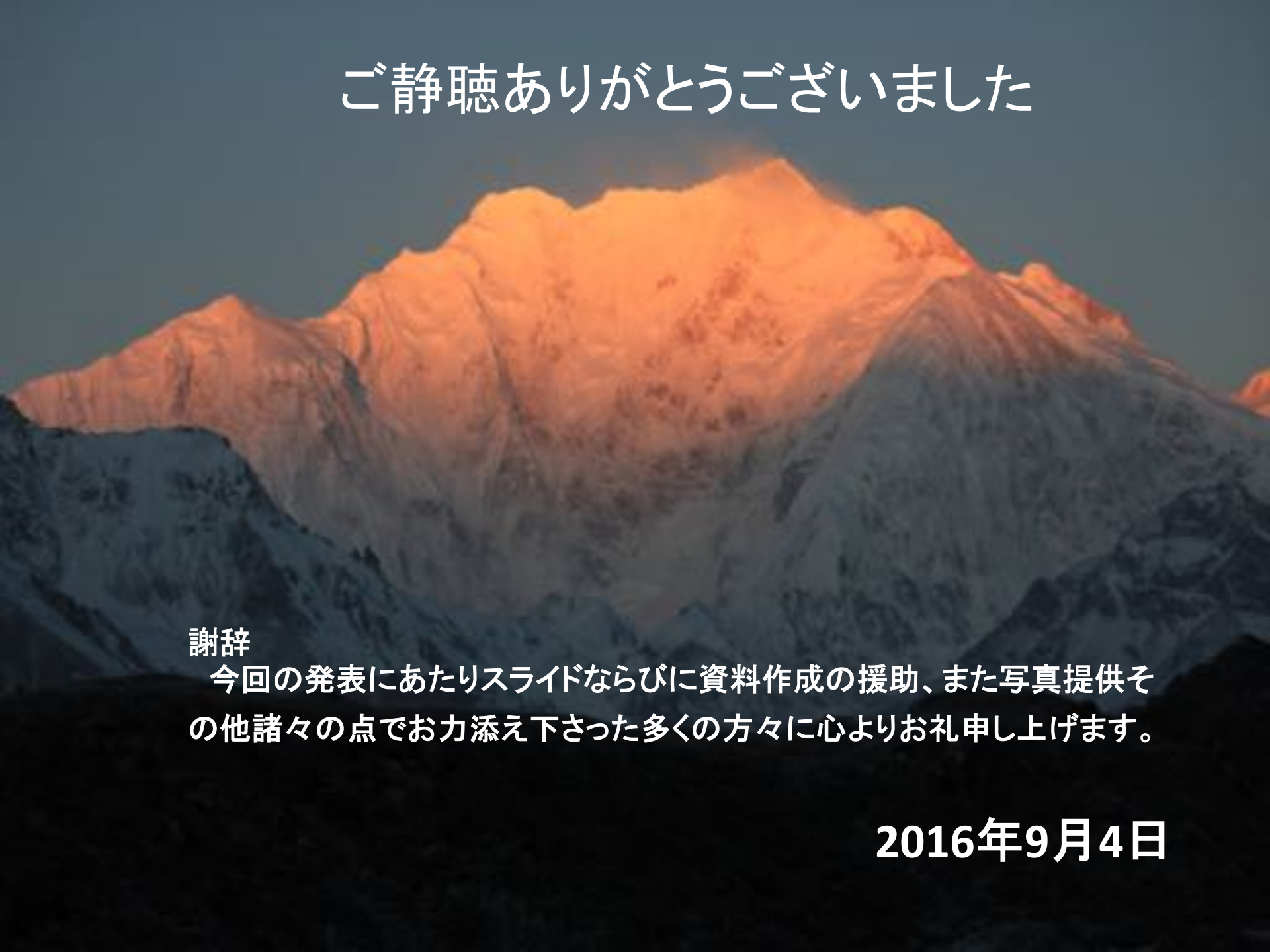


11:43 最後の一人が上がってくると若い
ポーターさん達も総立ちで拍手、涙があふれた

おわりに

この山旅出発前に手術した目が標高が上がるにつれ腫れあがって冷やし続けた方、膝の痛みには耐えながら「これが最後の山歩き」と頑張った方、そして疲労困憊のご様子で一段づつ最後の階段を踏みしめて上がっていらした最高齢Aさんのお姿に大きな感動と勇気を頂きました。
ラチェン～ゼマまで 全長 86kmの徒歩、16日間の山旅の記録です。

マナンの初めの一步に始まりあちこちの山歩きや高所での滞在、劣悪な環境下でのテント暮らしなどの積み重ねが今回のトレッキング遂行につながっているのかな、と感慨深いものがありました。



ご静聴ありがとうございました

謝辞

今回の発表にあたりスライドならびに資料作成の援助、また写真提供その他諸々の点でお力添え下さった多くの方々に心よりお礼申し上げます。

2016年9月4日